

2024年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年5月9日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長執行役員 (氏名) 飯塚 正也
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部部长 (氏名) 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003
 四半期報告書提出予定日 2024年5月13日 配当支払開始予定日 2024年5月27日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第2四半期の業績(2023年10月1日~2024年3月31日)

(1) 経営成績 (%表示は対業績予想同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第2四半期	1,100	△6.0	261	14.4	389	45.0	265	41.2
2024年9月期第2四半期 業績予想	1,170	—	228	—	268	—	188	—
(参考) 2023年9月期第2四半期	1,281	—	333	—	421	—	292	—
	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	売上高 営業利益率		売上高 経常利益率		売上高 四半期純利益率	
	円 銭	円 銭	%		%		%	
2024年9月期第2四半期	119.24	—	23.8		35.4		24.1	
2023年9月期第2四半期	131.37	—	26.0		32.9		22.8	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期第2四半期	4,368	3,904	89.4	1,752.52
2023年9月期	4,061	3,733	91.9	1,675.89

(3) 経営指標

	株価収益率 (四半期累積PER)	株価純資産倍率 (PBR)	自己資本利益率 (四半期累積ROE)
	倍	倍	%
2024年9月期第2四半期	14.80	1.01	6.95
2023年9月期第2四半期	13.40	1.04	7.78

(参考) 2024年3月29日 株価終値 1,765円 2023年3月31日 株価終値 1,760円

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2023年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 50.00	円 銭 50.00	百万円 111	% 43.1	% 3.0
2024年9月期	—	30.00	—	—	—	—	—	—
2024年9月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00	—	45.6	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の業績予想(2023年10月1日~2024年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,302	12.8	368	59.5	418	8.6	293	13.4	131.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年9月期2Q	2,228,000株	2023年9月期	2,228,000株
2024年9月期2Q	49株	2023年9月期	49株
2024年9月期2Q	2,227,951株	2023年9月期2Q	2,227,985株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 前期までのオンライン資格確認等システム導入に向けた特需が補助金の終了によってなくなったことから経営成績につきましては業績予想と比較をしております。

※ 経営指標の計算方法については以下の通りです。

四半期累積PERは株価終値を1株当たり四半期純利益で割って計算しております。

PBRは株価終値を1株当たり純資産で割って計算しております。

四半期累積ROEは四半期純利益を期中平均の純資産で割って計算しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当第2四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当第2四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化による国内消費の持ち直し等、緩やかながら回復傾向は見られるものの、長引くウクライナ情勢や中東情勢のさらなる悪化や中国経済の先行き懸念など、世界情勢は依然として予断を許さない状況が続いており、先行き不透明な状況下にあります。

そのような中、歯科医療業界においては、さらなる円安の進行による物価高騰やエネルギー価格上昇等の影響により、経営環境の回復が遅れていること、歯科医師の高齢化や医院承継者不足等が進んでおりシステム買替控えや閉院・廃院する歯科医院の増加していること、さらに前期までのオンライン資格確認等システム導入に向けた需要が補助金の終了によってなくなったことから、当第2四半期累計期間の業績にも多大な影響が見られました。

しかしながら、当社は、令和5年12月25日 上場3周年を記念したキャンペーンを実施、AI・音声シリーズ第1弾として、業界初となる歯科医師が診療中に手袋を外さなくても音声で電子カルテへ入力でき、会話録音・文章化により診療トラブル防止に繋がるAI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」の拡販、AI・音声シリーズ第2弾として、国民皆歯科健診制度の導入を踏まえ、歯科衛生士不足という社会問題の課題解決や歯周病治療に係る専門的検査項目の自動算出機能による大幅な時間短縮を可能とし、世界で幅広く使われている歯周病検査表(Perio chart)と国際基準のWHO・FDI(国際歯科連盟)方式に対応したAI・音声歯周病検査システム「Perio chart Pro.Voice」の拡販にそれぞれ注力したところ、第2四半期累計のAI・音声シリーズによるソフト売上は、第46期通期のおよそ3倍に迫る結果となりました。

また、令和5年6月厚労省による「医療DXの推進に関する工程表」の発表により医療DXが本格的に動き出す中、オンライン資格確認等システムの利用拡大へ向けた助成金活用として、令和6年3月開始の医療扶助、令和6年4月開始の訪問診療に係る対応ソフトを開発、さらにマイナ保険証利用率拡大へ向けた支援金支給へ患者さまのマイナ保険証の利用状況が見える化できるソフト「Clinicアシスト」を開発、歯科DX支援ソフトとして歯科医院のニーズに答えてまいりました。

このような取り組みの結果、売上こそ伸び悩んだものの、AI・音声電子カルテ統合システムおよびAI・音声歯周病検査システムの月額利用料による継続的売上が順調に拡大すると共に、オンライン資格確認等システムの利用拡大へ向けた医療扶助・訪問診療に係る対応ソフトおよびマイナ保険証利用率拡大へ見える化できるソフト「Clinicアシスト」、これら歯科DX支援ソフトの売上が極めて好調に推移しました。その結果、当第2四半期累計期間の業績は 売上高1,100,398千円(計画比94.0%)、営業利益 261,384千円(計画比114.4%、32,999千円増)、経常利益 389,805千円(計画比145.0%、120,965千円増)、四半期純利益265,659千円(計画比141.2%増、77,471千円増)となりました。

なお、引き続き、自己資本比率91.9%、売上高経常利益率35.4%、売上高四半期純利益率24.1%と高水準を維持しており、3/29現在 PER 14.80倍、PBR 1.01倍、ROE 6.95%となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は4,368,186千円となり、前事業年度末と比較して306,551千円増加いたしました。

a. 流動資産

流動資産は1,722,875千円となり、前事業年度末より582,721千円減少いたしました。主な内訳は、現金及び預金の減少668,134千円と、売掛金の増加201,593千円、有価証券の減少200,800千円であります。

b. 固定資産

固定資産は2,645,310千円となり、前事業年度末より889,273千円増加いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの減少23,046千円、有価証券の購入に伴う投資有価証券の増加928,240千円であります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は463,663千円となり、前事業年度末と比較して135,822千円増加いたしました。

a. 流動負債

流動負債は413,883千円となり、前事業年度末より135,079千円増加いたしました。主な内訳は、買掛金の増加60,463千円、未払法人税等の増加82,859千円、未払消費税等の増加21,593千円であります。

b. 固定負債

固定負債は49,779千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は3,904,522千円となり、前事業年度末と比較して170,729千円増加いたしました。前事業年度に係る配当金が111,368千円生じた一方、四半期純利益を265,659千円計上したことにより利益剰余金が154,261千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は1,009,674千円となり、前事業年度末より606,604千円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は46,761千円(前年同四半期は128,706千円の収入)となりました。これは主として、税引前四半期純利益の獲得による389,805千円の収入、減価償却費の計上38,056千円、棚卸資産の減少91,008千円があったものの、法人税等の納付による47,697千円の支出及び売上債権の増加201,593千円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって支払った資金は18,629千円(前年同四半期は171,246千円の支出)となりました。これは主として、投資有価証券の取得による支出2,502,902千円、有形固定資産の取得による支出3,513千円があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって支払った資金は111,368千円(前年同四半期は95,879千円の支出)となりました。これは主として、配当金111,368千円の支出があったことによります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の業績予想につきましては、2023年11月13日に「2023年9月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

国が進める医療DX実現に向けては、全国医療情報プラットフォーム創設と国民のマイナ保険証利用率を上げていくことが重要となり、その為にオンライン資格確認等システムの利用拡大へ向けた助成金制度活用やマイナ保険証利用率拡大へ向けた支援金支給、さらにマイナンバーカードを診察券や公費受給者証として利用可能にするなど様々な施策が進められており、当社は、迅速に歯科DX支援ソフトを開発して歯科医院のニーズに応えてまいりました。

そして「Clinicアシスト」見える化シリーズとして、4月には歯周病患者のメンテナンス状況や歯科衛生士毎の患者さま件数がリアルタイムでわかる歯周病定期メンテナンス促進支援ソフトを開発、5月には初診・再診・訪問診療に係る歯科ベースアップ評価料の算定見込み回数や金額が見える化できる支援ソフトを開発して歯科医院の経営分析や医院収入の拡大へ支援してまいります。

一方、「令和6年度診療報酬改定」につきましては、医療DXが本格的に動き出すと共に2月14日 中医協より厚生労働大臣への答申にて示された「診療報酬点数表」は108頁にもおよび前回の2倍以上の規模と過去に前例のない大改定となっております。

そこで当社は、全国の先生方へ向けて令和6年度診療報酬改定説明会をWebにて実施、改定内容のポイントである医療DX推進、訪問診療の強化・見直し、予防・メンテナンス・管理強化について説明すると共に、治療主体から医療DX・訪問歯科・予防歯科を取り入れた医院経営の変革を支援し、来院患者の増加や医院収入の拡大へ繋げていく為のシステムとしてAI・音声シリーズ第2弾 AI・音声歯周病検査システム「Perio chart Pro. Voice」の拡販に注力してまいります。

さらにAI・音声シリーズ第3弾として、多くの歯科医師が熱望するサブカルテのデジタル化へ向け、歯科医院が使用している独自フォーマットのサブカルテをiPadアプリにデジタルデータとして取り込み、そこに日立のAI音声認識技術と「Recware」の音声テキスト化機能を連携・融合させることで、歯科医院で共有する患者さまのあらゆる情報を院内だけでなく訪問診療先でもAI・音声による入力と情報共有が可能となる業界初の画期的なシステムとしてAI・音声サブカルテシステム「Sub Karte-Voice」を近日リリースする予定です。

このAI・音声シリーズ第2弾「Perio chart Pro.Voice」、AI・音声シリーズ第3弾「Sub Karte-Voice」の2つを大きな軸として販売エリアを全国規模へ拡大、主力商品であるAI・音声シリーズ第1弾「Hi Dental Spirit AI-Voice」へ繋げてまいります。そして、中長期的には約3,000歯科医院へAI・音声シリーズ第1弾・第2弾・第3弾を拡販していくことで、売上高35億円 経常利益10億円 売上高経常利益率28.5% 純利益7億円 売上高純利益率20.0%の達成を目指してまいります。引き続き、歯科業界にとって最も大きな課題であるDX実現を力強く支援すると共に国民のQOL向上にも貢献してまいります。是非ともご期待ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,402,910	734,776
売掛金	230,132	431,726
有価証券	200,800	—
商品	169,732	260,740
前払費用	31,752	18,877
未収入金	4,151	1,821
預け金	266,118	274,897
その他	—	35
流動資産合計	2,305,597	1,722,875
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	322,586	313,930
構築物（純額）	2,148	2,057
車両運搬具（純額）	9,798	8,051
工具、器具及び備品（純額）	30,367	29,418
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	714,830	703,387
無形固定資産		
ソフトウェア	172,806	149,759
ソフトウェア仮勘定	80,069	80,069
その他	2,017	1,965
無形固定資産合計	254,893	231,793
投資その他の資産		
投資有価証券	710,600	1,638,840
敷金及び保証金	35,358	35,312
繰延税金資産	39,138	34,825
その他	1,216	1,152
投資その他の資産合計	786,313	1,710,129
固定資産合計	1,756,037	2,645,310
資産合計	4,061,635	4,368,186

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,915	113,379
未払金	130,146	96,056
未払法人税等	54,745	137,604
未払消費税等	6,867	28,461
預り金	12,999	18,276
賞与引当金	11,249	13,366
その他	9,880	6,739
流動負債合計	278,804	413,883
固定負債		
退職給付引当金	49,036	49,779
固定負債合計	49,036	49,779
負債合計	327,841	463,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	3,118,662	3,272,924
自己株式	△77	△77
株主資本合計	3,759,145	3,913,406
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△25,351	△8,884
評価・換算差額等合計	△25,351	△8,884
純資産合計	3,733,793	3,904,522
負債純資産合計	4,061,635	4,368,186

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年10月1日 至2024年3月31日)
売上高	1,281,833	1,100,398
売上原価	330,631	253,829
売上総利益	951,201	846,569
販売費及び一般管理費	617,937	585,185
営業利益	333,264	261,384
営業外収益		
受取利息	6	3
有価証券利息	9,572	9,952
受取配当金	—	5,000
受取手数料	300	425
投資有価証券売却益	78,333	107,995
その他	459	5,044
営業外収益合計	88,671	128,421
経常利益	421,936	389,805
税引前四半期純利益	421,936	389,805
法人税、住民税及び事業税	133,081	127,046
法人税等調整額	△3,832	△2,900
法人税等合計	129,249	124,145
四半期純利益	292,686	265,659

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	421,936	389,805
減価償却費	28,411	38,056
受取利息及び受取配当金	△9,579	△14,956
売上債権の増減額 (△は増加)	△267,106	△201,593
棚卸資産の増減額 (△は増加)	114,285	△91,008
仕入債務の増減額 (△は減少)	△21,035	60,463
投資有価証券売却損益 (△は益)	△78,333	△107,995
賞与引当金の増減額 (△は減少)	364	2,117
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,537	743
未払消費税等の増減額 (△は減少)	22,320	21,593
その他	△3,884	△18,723
小計	204,841	78,502
利息及び配当金の受取額	9,579	15,956
法人税等の支払額	△85,714	△47,697
営業活動によるキャッシュ・フロー	128,706	46,761
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	—	310,000
有形固定資産の取得による支出	△10,083	△3,513
無形固定資産の取得による支出	△159,362	—
有価証券の売却及び償還による収入	—	200,000
投資有価証券の取得による支出	△226,200	△2,502,902
投資有価証券の売却及び償還による収入	242,453	1,707,138
投資事業組合からの分配による収入	—	4,449
預け金の増減額 (△は増加)	△15,971	266,118
その他	△2,082	80
投資活動によるキャッシュ・フロー	△171,246	△18,629
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△77	—
配当金の支払額	△95,802	△111,368
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95,879	△111,368
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△138,419	△83,236
現金及び現金同等物の期首残高	1,488,580	1,092,910
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,350,160	1,009,674

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。